

3 教科指導

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
教科指導 (国語)	学力向上	わかりやすい授業を実施する。	授業進度、指導内容等を、綿密に打ち合わせる。	A	A	A
			適宜、相互に授業見学等を行い、資質の向上に努める。	A		
		基礎学力を向上させる。	学習到達度確認問題（小テスト）で80%以上の合格を目指し、基礎事項を定着させる。	B	A	
			休日講習や、長期休業中の補習を行うとともに、適切な課題等を与える。	A		
		実践力を養成する。	各学年部と協力して、小論文の添削指導、読書指導を行う。	A	A	
			過去の入試問題を研究させ、解説を加える。	A		
教科指導 (地理歴史・公民)	学力向上	学年、科目に応じたきめ細かい指導を行う。	授業展開を工夫することにより、生徒の関心を喚起する。	A	B	B
			学習到達度確認問題（小テスト）の合格率を80%以上とする。	B		
		大学入試に対応できる学力を養成する。	進研模試（2年11月）の各科目（世界史・日本史・地理・公民）の平均点偏差値が、45～50以上になるようにする。	A	B	
			大学入試共通テストの地歴・公民4科目(日本史・世界史・地理・倫政)の校内平均点が、全国平均点を上回ることを目指す。	C		
教科指導 (数学)	学力向上□	充実した授業を行う。	生徒による授業評価票における4段階総合評価（4.満足、3.やや満足、2.やや不満、1.不満）において、3.以上が標準になることを目指す。	B	B	B
			個々の生徒に応じて指導する。	基礎的、応用的な内容の休日講習会を計画をふまえ、ねらいをもって実施する。	A	
		共通テストで全国平均点+10点以上になるような指導をする。		個々の生徒に応じた課題を工夫する。	B	
			学習到達度確認問題（小テスト）や反復練習などで計算力の向上と基礎的・基本的内容の理解と定着を図る。	B	B	
		実戦問題を通して、応用力を養成する。	B			
教科指導 (理科)	学力向上	授業内容を充実させる。	実験、観察、コンピュータを取り入れ、知的好奇心を引き出す。	A	A	A
			生徒による授業評価を行い、平均で5段階の「4」を目指す。	B		
		進路希望達成に必要な学力を養成する。	学習到達度確認問題（小テスト）で、平均得点80%、合格率80%を目指す。	B	B	
			問題演習を通して共通テストに必要な学力を養成する。	B		
		教員研修を実施する。	理科教員間で相互に授業を参観し、授業に関する資質向上を図る。	A	A	
			教科会で、科学最新事情や入試問題についての情報交換を行う。	A		

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価			
教科指導 (英語)	学力向上	個々の進路実現に必要な学力を養成することとおして、英語を用いてグローバル社会に貢献する人材を育成する。	3年次において、大学入学後を見据えた、総合的な英語力の育成を目指す。	B	B	B	
			2年次において、大学入試の先を見据えた、英語力を身に付けさせ、英語を通じて必要な学力を養成する。	B			
			1年次において、高校3年間を見据えた、英語力の基礎を身に付けさせることを目指す。	C			
		実用的な英語運用力を養成する。	3年次において、英語の科目間の連携を図り、4技能のバランスのとれた英語力を養成し、6割以上の生徒が英検2級以上を取得することを旨とする。	A	A		
			2年次において、英語の科目間の連携を図り、4技能のバランスのとれた英語力を養成し、CEFRでB1であること、または4割以上の生徒が英検2級以上を取得することを旨とする。	A			
			1年次において、英語の科目間の連携を図り、4技能のバランスのとれた英語力を養成し、CEFRでA2であること、または7割以上の生徒が英検準2級以上を取得することを旨とする。	A			
		教員の教科指導力を養成する。	教員相互で授業参観を行い、技能や知識の共有を図る。	基本的に英語で授業を行う。	B		B
				校内・校外研修の協議会や報告会を行い、より効果的な指導法を探り、実践する。	A		
					B		
		教科指導 (保健体育)	体力・健康の増進および運動量の確保	運動を通して体力と気力、他者と協力する態度を養う。	体力づくり運動として持久走トレーニングを多く取り入れ、国際大学までの往復走(5km)を行う。		A
毎時の準備運動の中で補強運動(体力づくり運動)を実施し、体力・筋力の向上と他者との協力・協働、コミュニケーションを行う。	A						
授業規律の確保および公正、協力、フェアプレイの態度を育成する。	天候や体調等に合わせた体操着を正しく着用させ、身だしなみを整えることの大切さを意識させる。(腰パン・シャツ出し不可)。			A	A		
	授業における準備や後片付けなどを協力して行わせる。			A			
競技や運動の特性に合わせて、楽しく運動する。	運動の技術・技能を向上させるとともに、種目選択を通して運動の楽しさと喜びを体験させ、より主体的で継続的な取り組みを促す。			B	B		
成果		生成AIを活用するなど、これまでの教育実践の蓄積に加え、ICTを活用することによる教育活動の活性化・充実を図ることができた。 各部署が創意工夫を凝らし、生徒の成長を促す取組を行うことができた。 次年度も、生徒が主体的に学ぶ教育活動を一層充実させ、生徒の資質・能力を着実に育成していく。	総合評価				
			A				